

2023年度 「輸血療法に関するアンケート」調査 集計結果

令和6年2月3日版

栗栖 あけみ、秋田 智之、田中 純子

広島大学大学院 医系科学研究科 疫学・疾病制御学
疫学&データ解析新領域プロジェクト研究センター

調査方法

○調査対象

広島県内で輸血療法を実施する290の医療機関を対象とした

○調査時期

2023年10月23日(調査票発送)～ 2023年11月30日

○調査方法

広島県電子申請システムによるネット入力のほか、郵送により回収。

記名自記式調査 (集計結果は匿名化)

○調査・解析について：

広島大学 疫学研究倫理審査委員会 承認 (許可番号 第E-204-1号)

アンケート回答状況・解析群の設定

アンケート回答状況

令和5年12月15日時点

アンケート発送数	回収数	回収率
290	114	39.3%

○過去回答状況（過去3回）

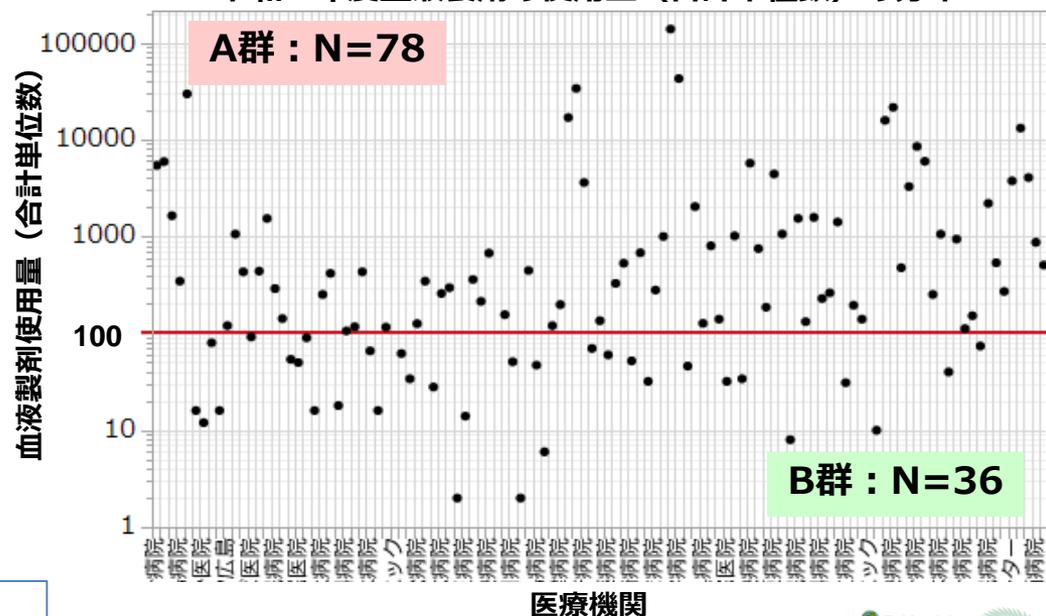
- ・ 令和3年度：79/291 [27.1%]
- ・ 平成28年度：102/137 [74.5%]
- ・ 平成27年度：108/137 [78.8%]

アンケート解析群の設定

令和4年度血液製剤3剤の使用量（赤血球製剤・血小板製剤・血漿製剤の合計単位数）に基づきA群・B群を設定

	血液製剤の使用量 合計単位数	医療機関 数
A群	100以上	78
B群	100未満	36
計		114

令和4年度血液製剤の使用量（合計単位数）の分布



平均値±SD : 3475.23±14263.8 (単位)
中央値 [第1-第3四分値] : 252 [58.5-1024.75]

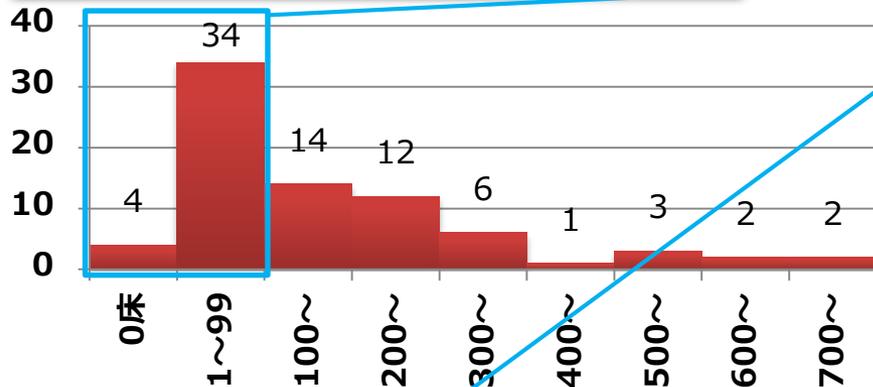
1. 医療機関の概要について

N=114

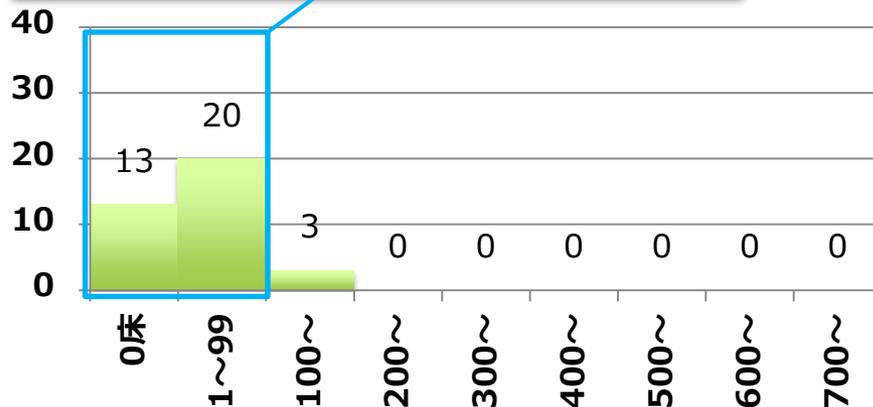
貴院の一般病床数は？

令和4年度血液製剤3剤の合計使用量 A : B

A : 100単位以上の施設 N=78

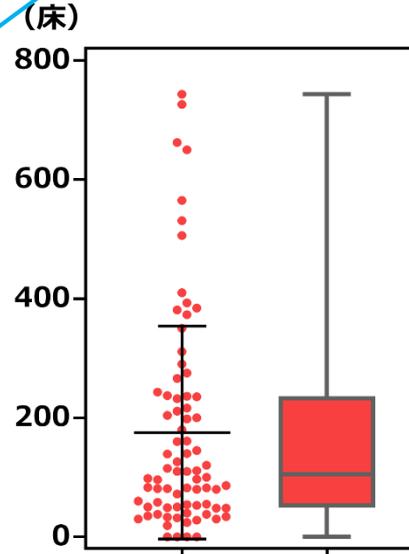
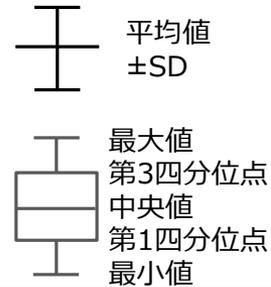


B : 100単位未満の施設 N=36



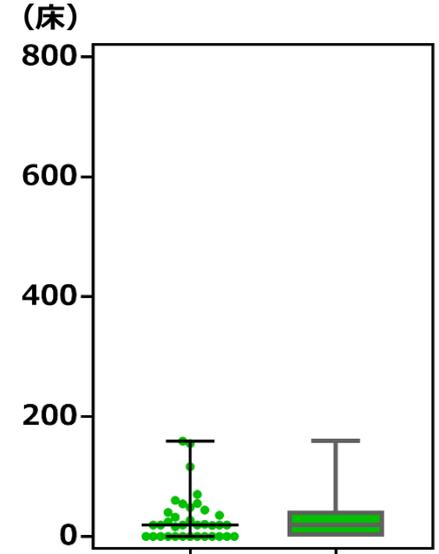
R3年度
47.4% (37/78施設)

100床未満の施設
R5年度
62.3% (71/114施設)



A: 100単位以上の施設

平均値±SD :
175.2 ± 178.7 (床)
中央値 [第1-第3四分値] :
105.0 [49.75 – 236.3]



B: 100単位未満の施設

平均値±SD :
30.19 ± 40.33 (床)
中央値 [第1-第3四分値] :
19.00 [0.00 – 43.00]

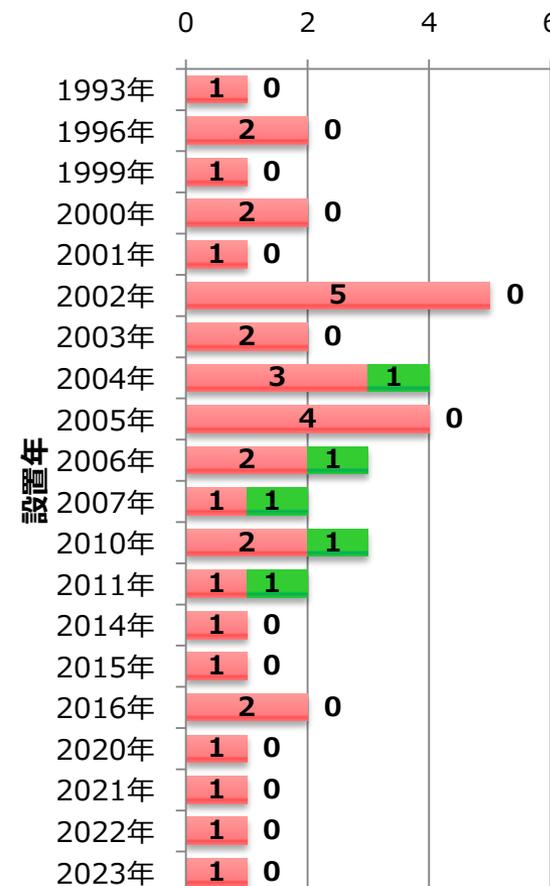
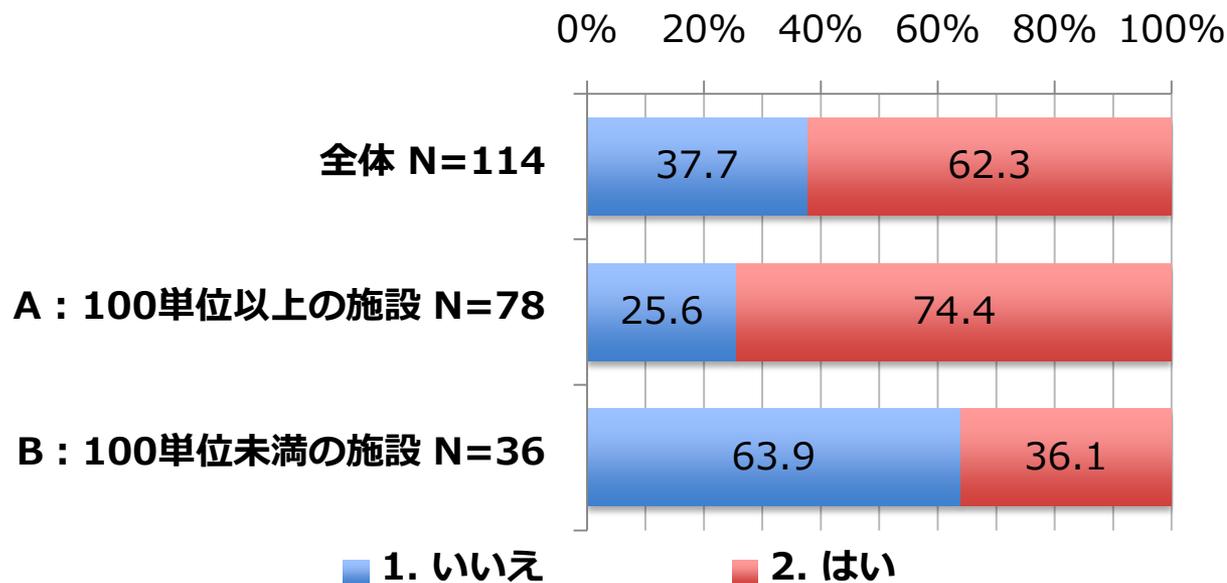
2. 「輸血療法委員会」について

N=114

「輸血療法委員会」は設置していますか

設置していると回答した71施設のうち、
設置年の回答があった40施設の分布

令和4年度血液製剤3剤の合計使用量 A : B



114施設中71施設 (62.3%) が設置

R3年度 : 67/78施設 (85.9%)

■ A : 100単位以上の施設 N=35
■ B : 100単位未満の施設 N=5

3. 現時点の輸血の管理体制について

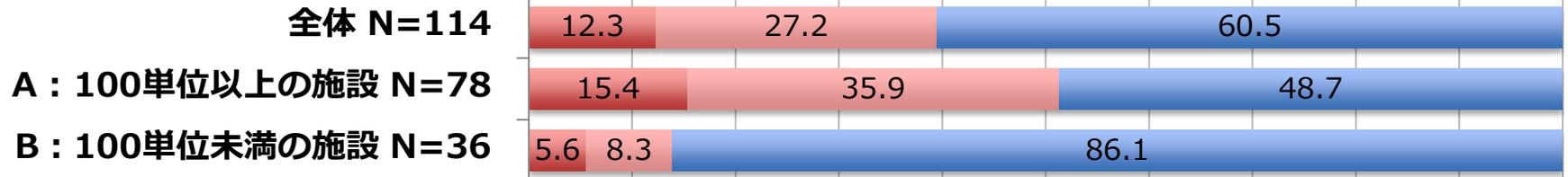
N=114

臨床(衛生)検査技師の配置状況

R3年度調査：“常勤検査技師が勤務” 58.9%

令和4年度血液製剤3剤の
合計使用量 A : B

0% 20% 40% 60% 80% 100%



- 1. 輸血部門において、常時配置されている専従の常勤検査技師が1名以上勤務している
- 2. 輸血部門において、専任の常勤検査技師が1名以上勤務している
- 3. これらに当てはまる検査技師はいない

夜間休日の輸血検査体制

令和4年度血液製剤3剤の
合計使用量 A : B

0% 20% 40% 60% 80% 100%



- 1. 検査技師による輸血検査の24時間体制を実施している
- 2. 検査技師によるオンコール体制で輸血検査を実施している
- 3. 医師が輸血検査をしている
- 4. その他

4. 輸血管管理料について

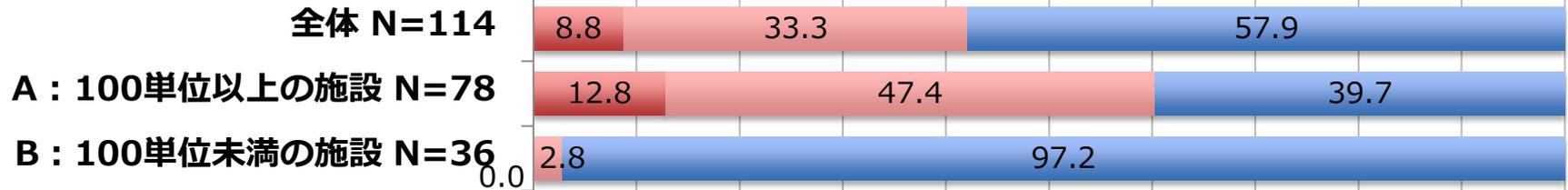
N=114

輸血管管理料の算定をしていますか

R3年度調査：“算定していない” 39.7%

令和4年度血液製剤3剤の
合計使用量 A : B

0% 20% 40% 60% 80% 100%



■ 算定している：輸血管管理料 I ■ 算定している：輸血管管理料 II ■ 算定していない

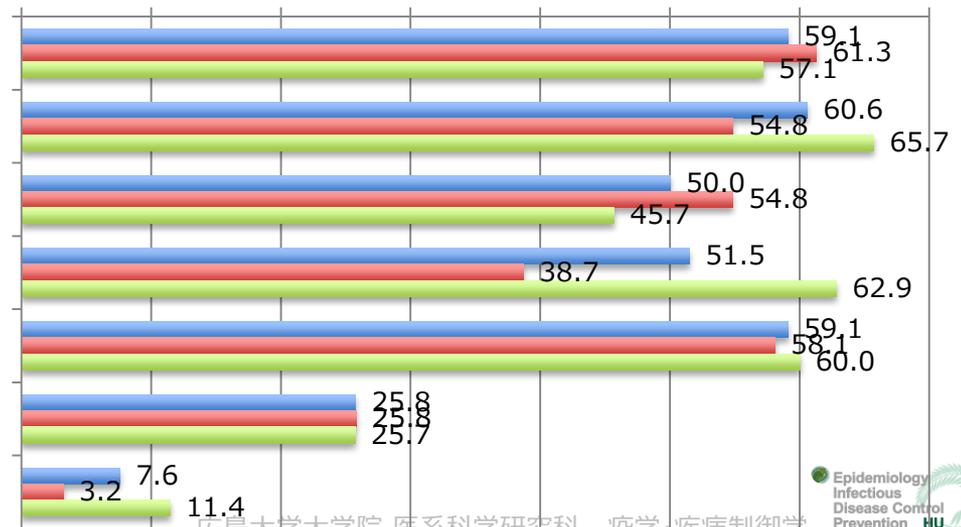
算定をしていない理由

N=66

(%)

0.0 10.0 20.0 30.0 40.0 50.0 60.0 70.0

1. 輸血部門において、輸血業務全般に関する【専任or責任】常勤医師を配置していない
2. 輸血部門において、【専従or責任】常勤臨床検査技師を配置していない
3. 輸血部門において、【輸血用血液製剤及びアルブミン製剤or輸血用血液製剤】の一元管理をしていない
4. ABO血液型、Rh(D)血液型、血液交差試験又は間接クームス検査、不規則抗体検査を常時実施できる体制が構築されていない
5. 輸血療法委員会を設置し、年6回以上開催していない
6. 輸血前後の感染症検査に実施又は輸血前の検体保存が行われていない



■ 全体 N=66
■ A : 100単位以上の施設 N=31
■ B : 100単位未満の施設 N=35

5. 血液製剤の使用について

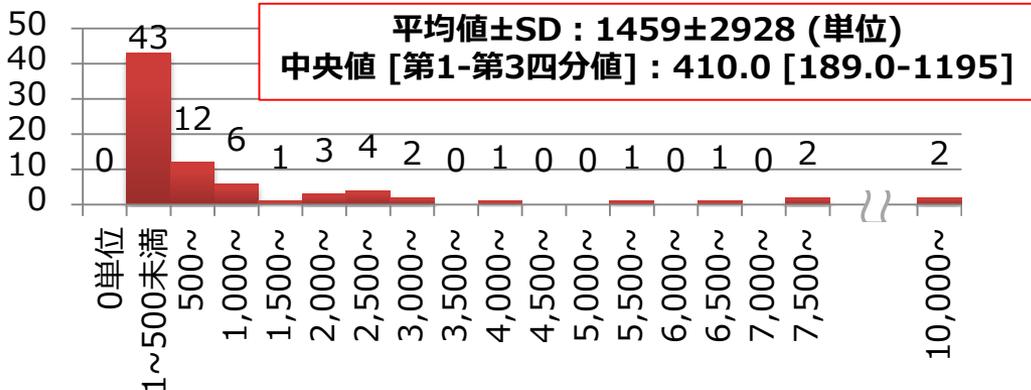
令和4年（又は令和4年度）の血液製剤の使用量

N=114

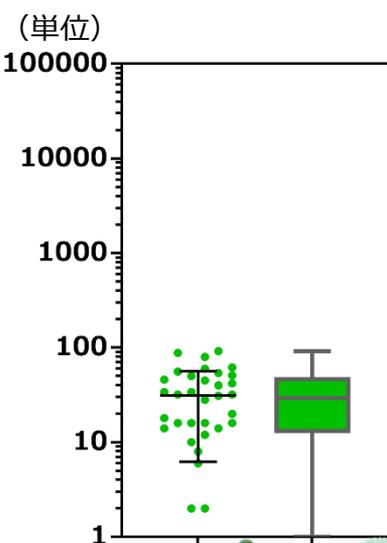
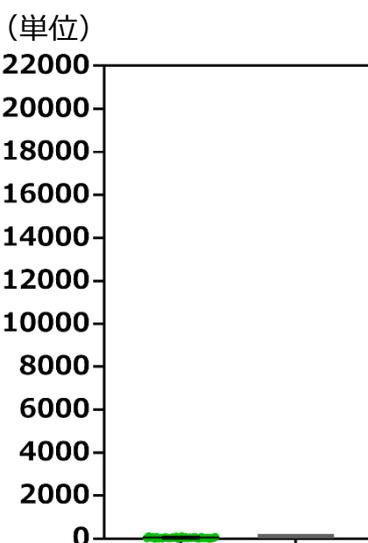
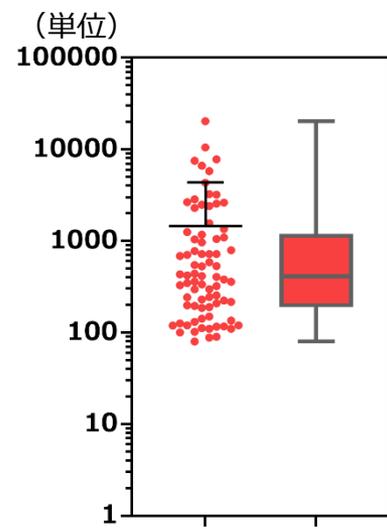
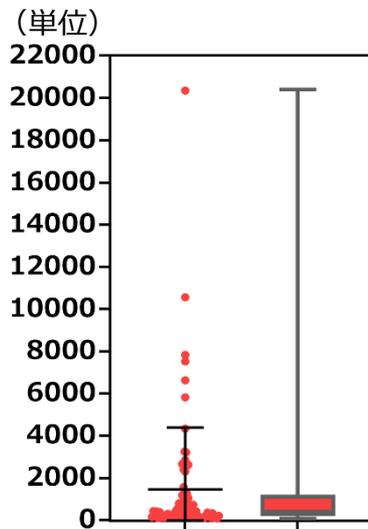
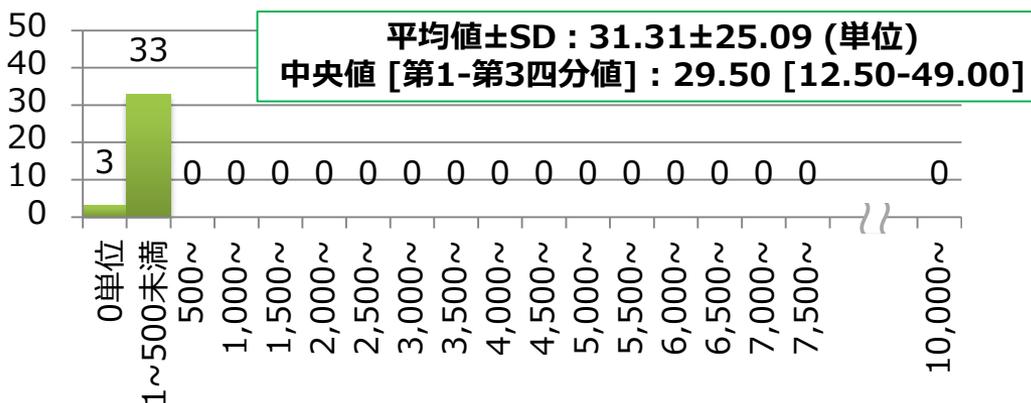
1. 赤血球製剤使用量

令和4年度血液製剤3剤の合計使用量 A : B

A : 100単位以上の施設 N=78



B : 100単位未満の施設 N=36



5. 血液製剤の使用について

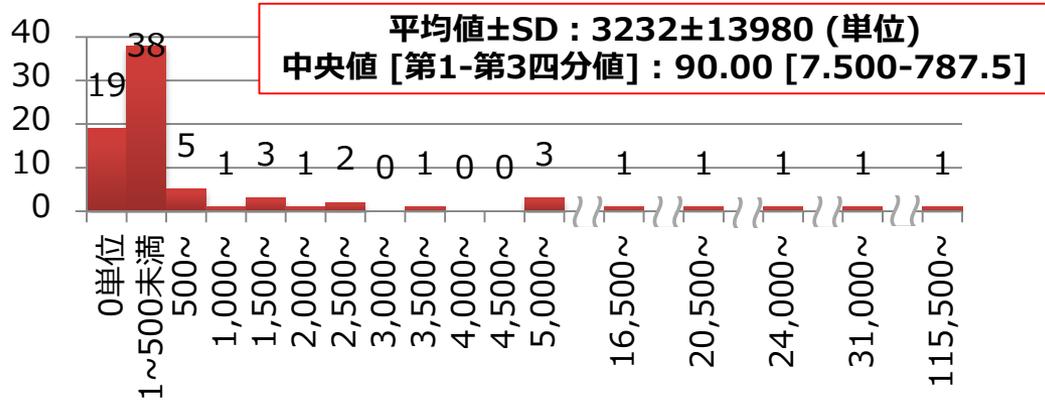
令和4年（又は令和4年度）の血液製剤の使用量

N=114

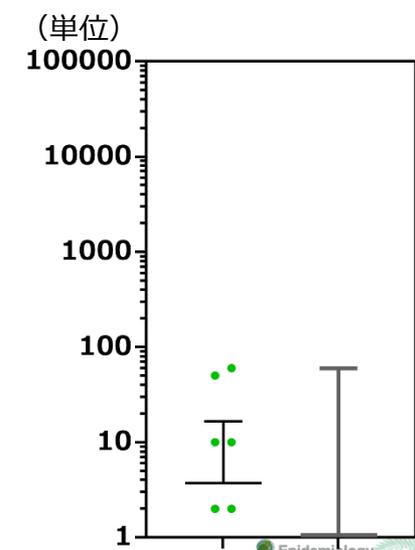
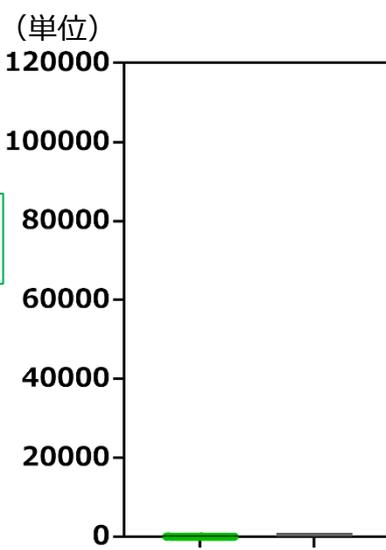
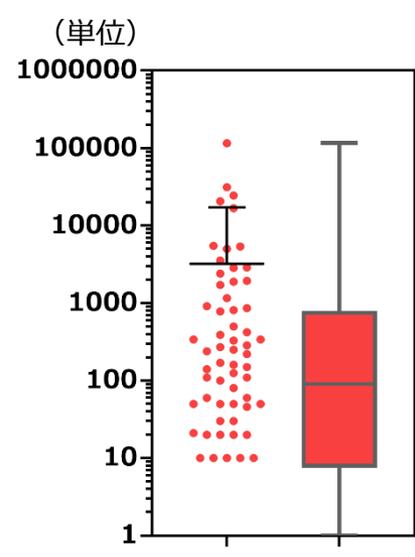
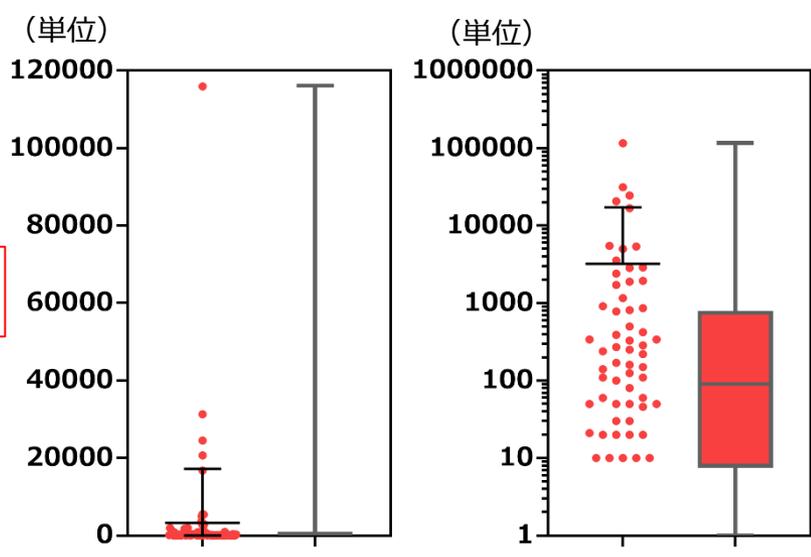
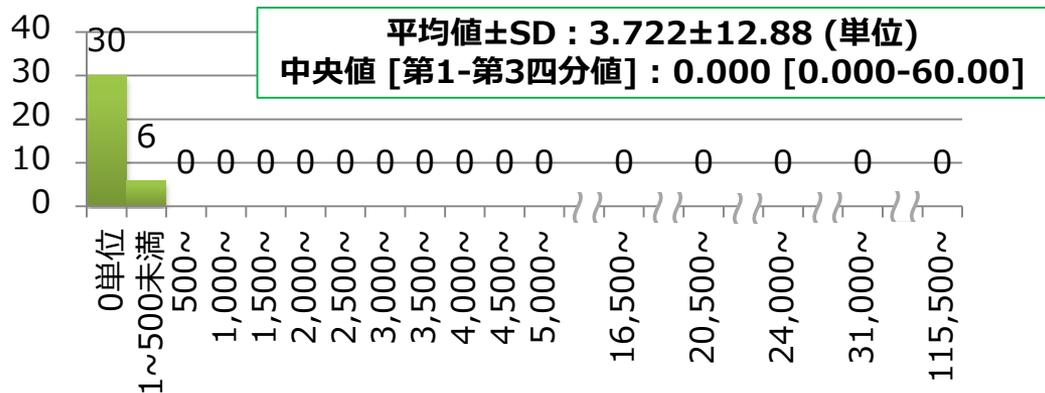
2. 血小板製剤使用量

令和4年度血液製剤3剤の合計使用量 A : B

A : 100単位以上の施設 N=78



B : 100単位未満の施設 N=36



5. 血液製剤の使用について

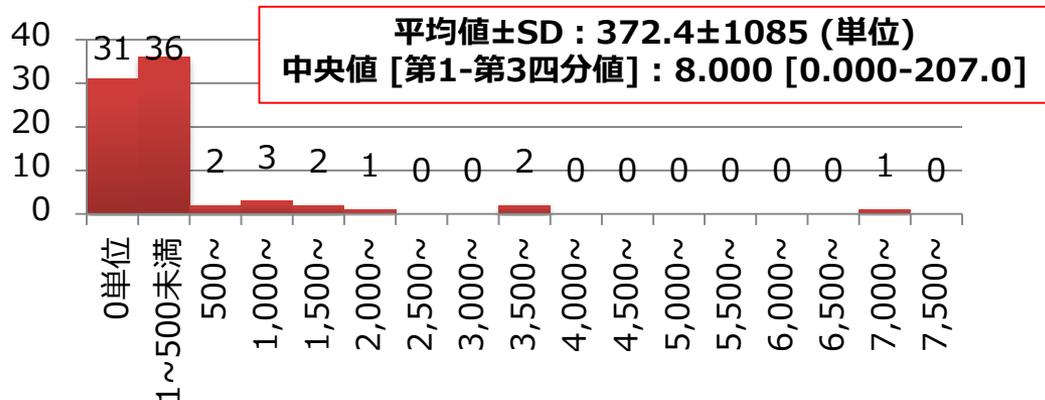
令和4年（又は令和4年度）の血液製剤の使用量

N=114

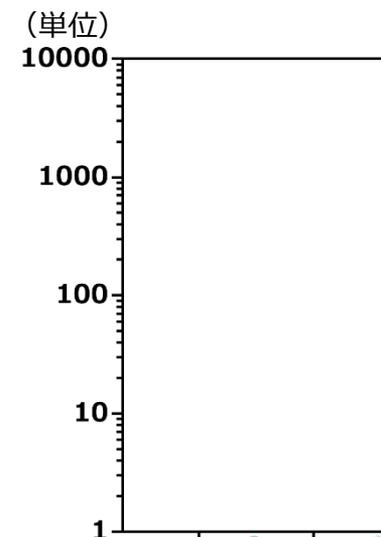
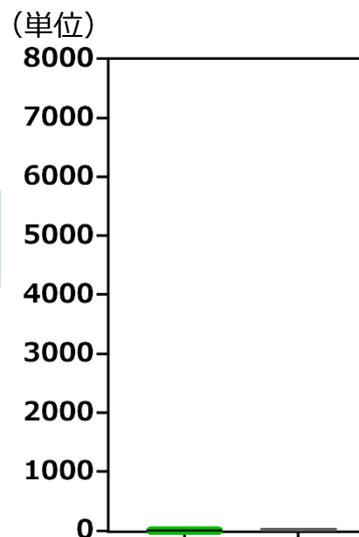
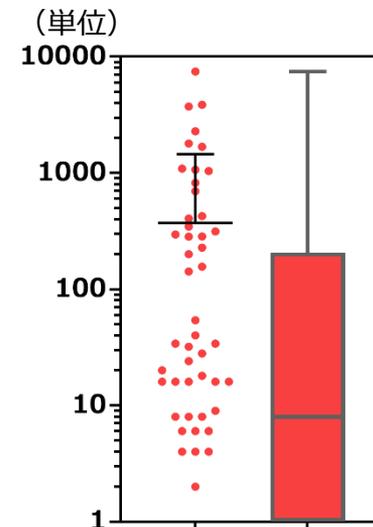
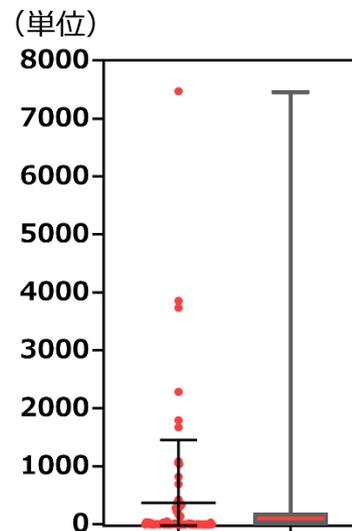
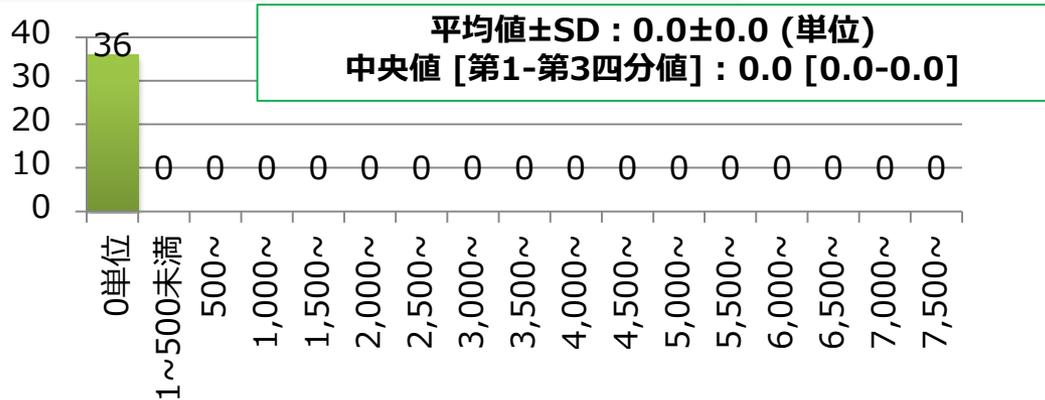
3. 血漿製剤使用量

令和4年度血液製剤3剤の合計使用量 A : B

A : 100単位以上の施設 N=78



B : 100単位未満の施設 N=36



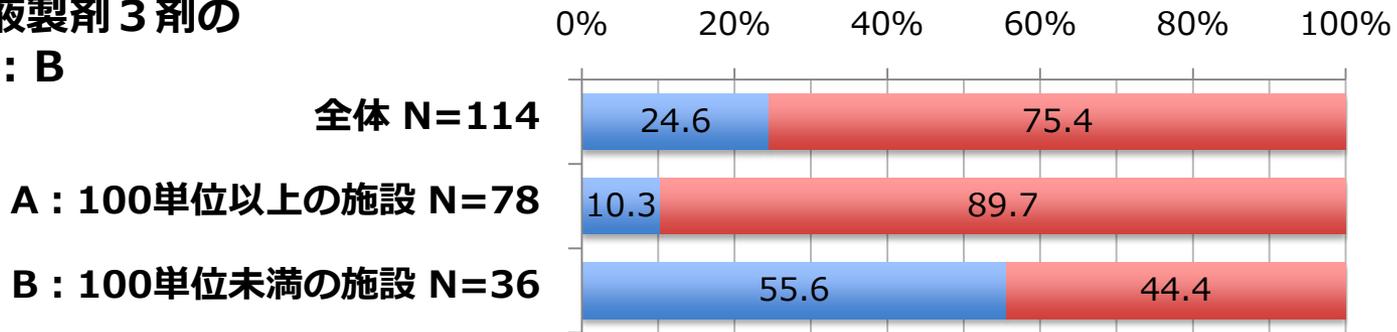
6. 遡及調査について

N=114

輸血前の検体の保管を実施していますか

R3年度調査：“保管している”92.3%

令和4年度血液製剤3剤の
合計使用量 A : B



■ 1. 保管していない

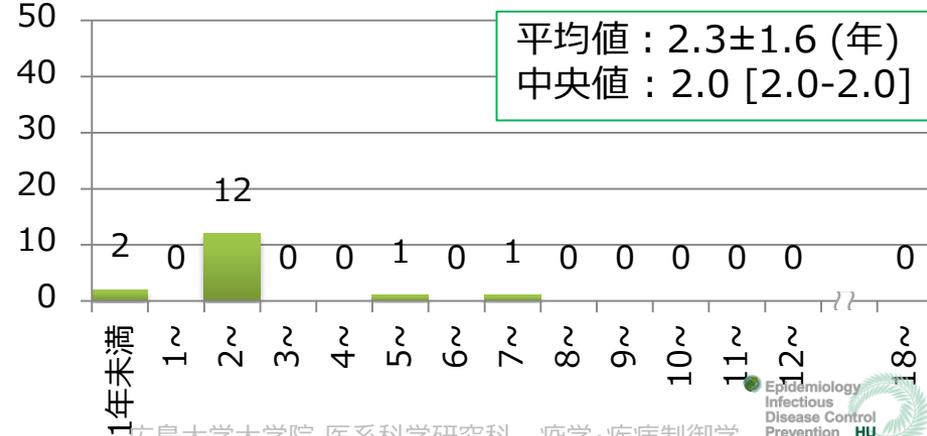
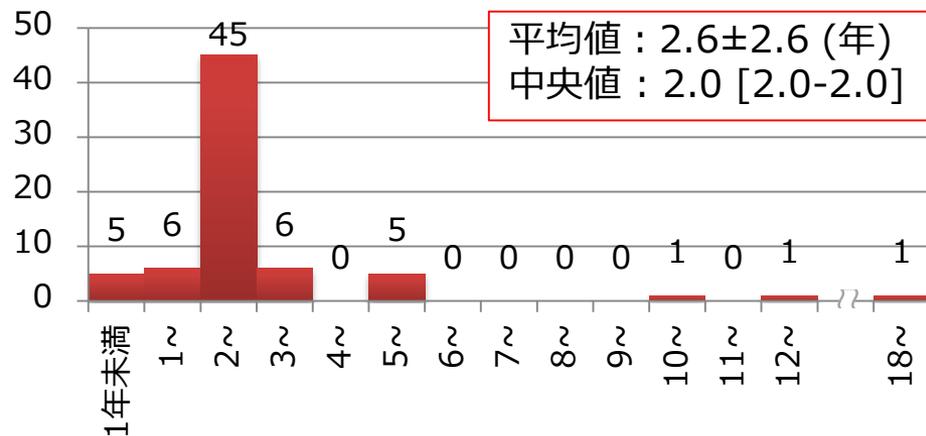
■ 2. 保管している

N=86

検体保管期間

A : 100単位以上の施設 N=70

B : 100単位未満の施設 N=16

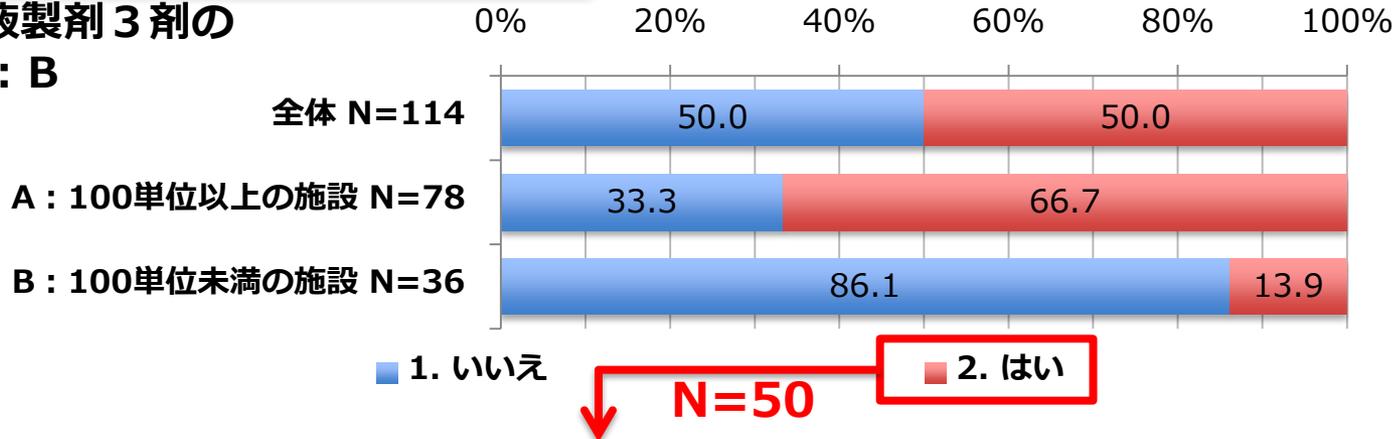


7. 緊急時の輸血について

N=114

緊急時の輸血に対応があるか

令和4年度血液製剤3剤の
合計使用量 A : B

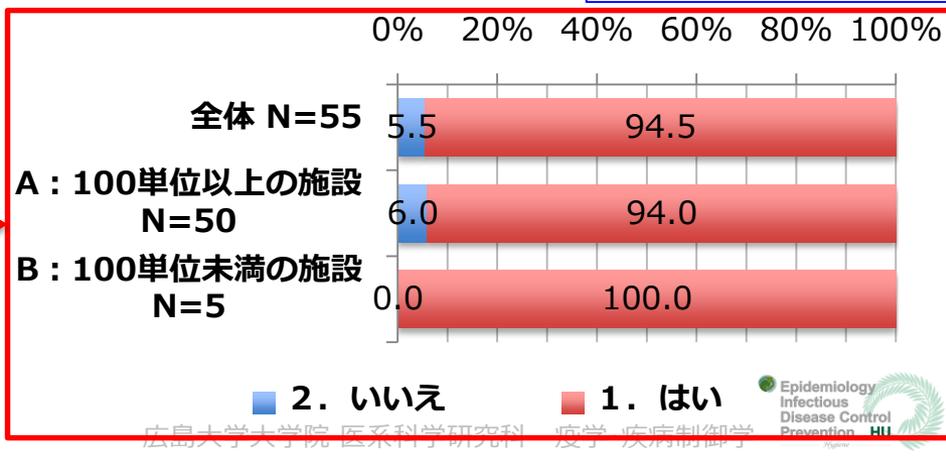
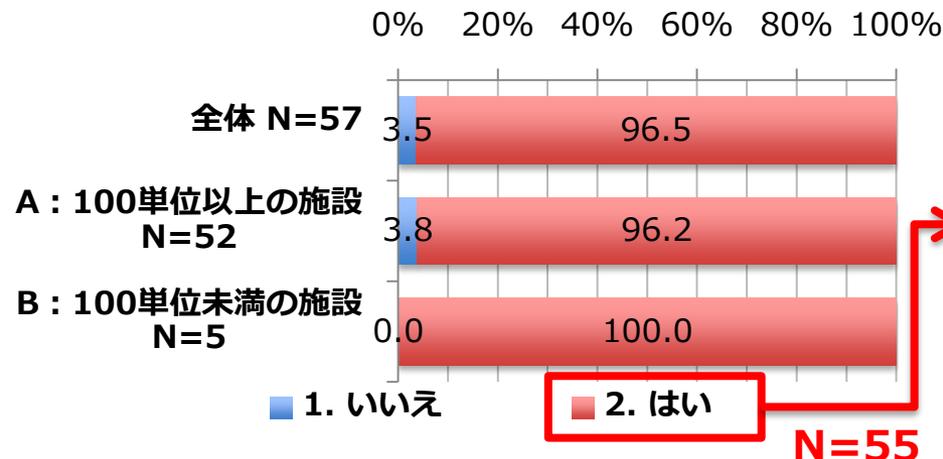


緊急時の輸血に対応するための院内体制が整備されているか

R3年度調査：
“整備されている”92.0%

手順書・マニュアルを
作成しているか

R3年度調査：
“作成している”100%

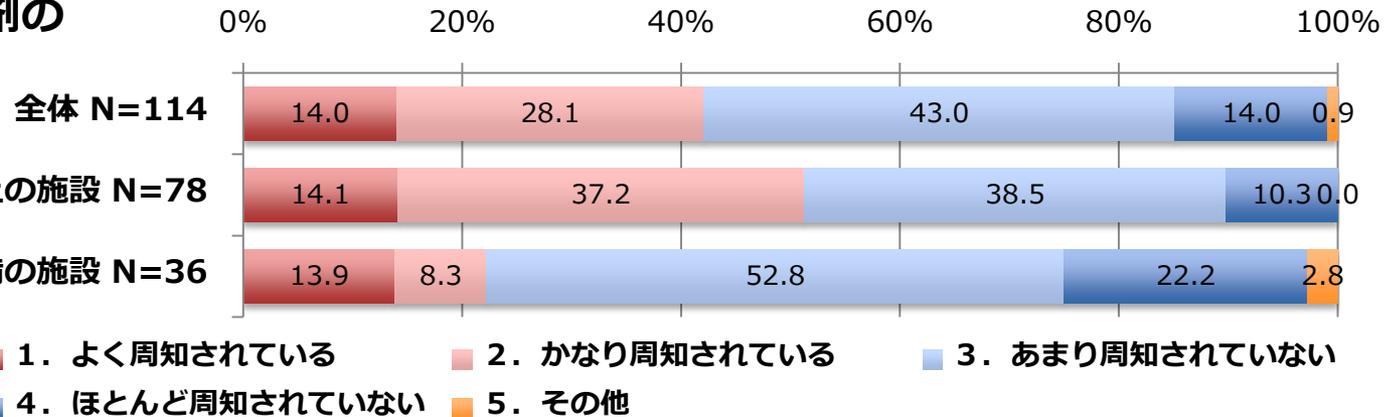


8. 宗教的輸血忌避患者への対応について

N=114

「宗教的輸血拒否に関するガイドライン」は周知されているか

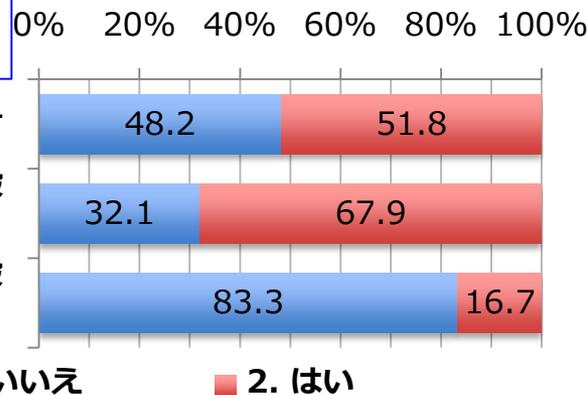
令和4年度血液製剤3剤の
合計使用量 A : B



R3年度調査：
“周知されている”50.0%

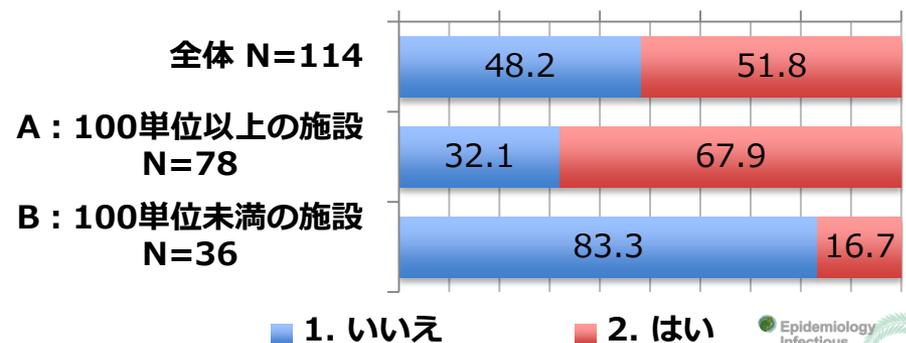
対応手順書・マニュアル等を作成しているか

R3年度調査：
“作成している”75.6%



過去5年間に 対応経験があるか

0% 20% 40% 60% 80% 100%



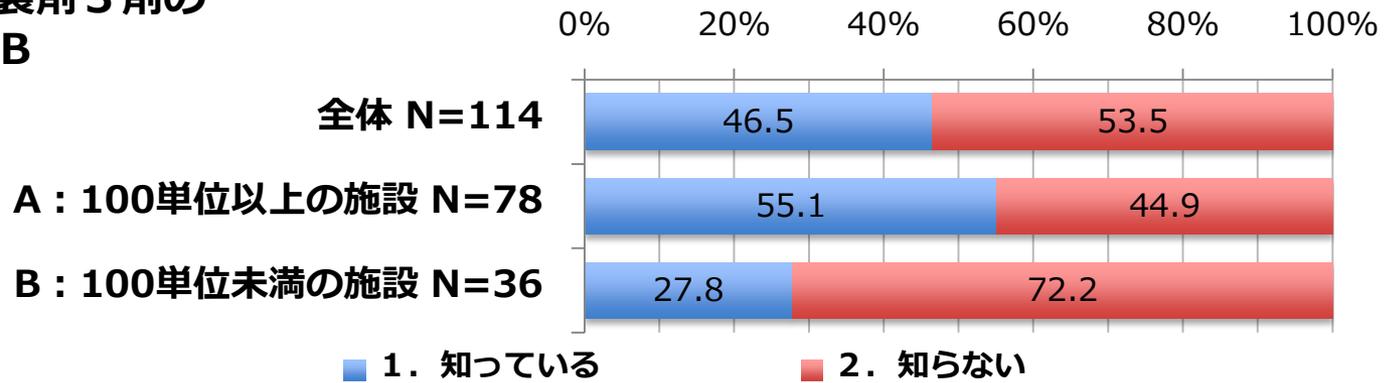
9. 大量輸血プロトコール

N=114

(Massive Transfusion Protocol : MTP) について

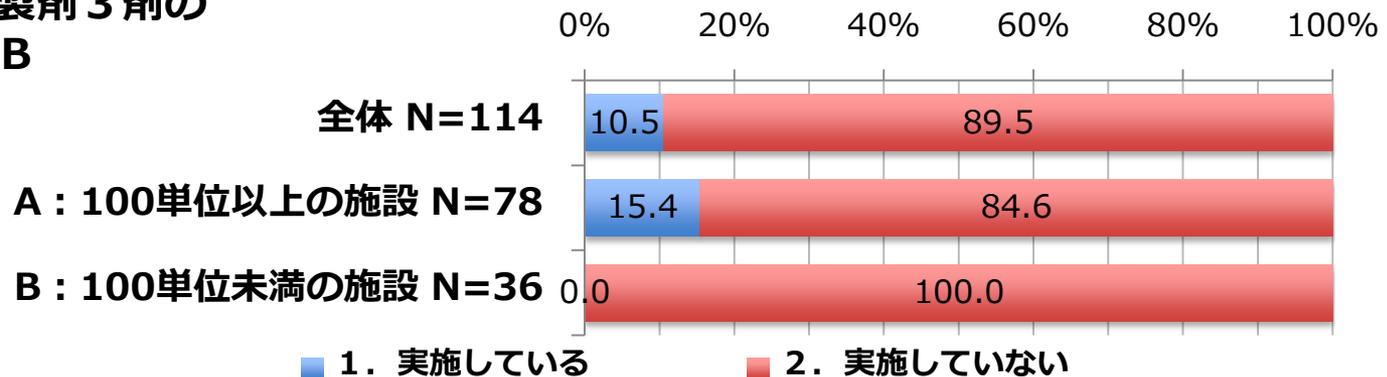
「血液製剤の使用指針」「大量出血症例に対する血液製剤の適正な使用のガイドライン」において、MTPが推奨されていることを知っているか

令和4年度血液製剤3剤の
合計使用量 A : B



救急部門等で大量輸血患者(概ね6時間以内に10単位以上)に
FFP:PC:RBC=1:1:1を目標とする輸血(MTP)を実施しているか

令和4年度血液製剤3剤の
合計使用量 A : B

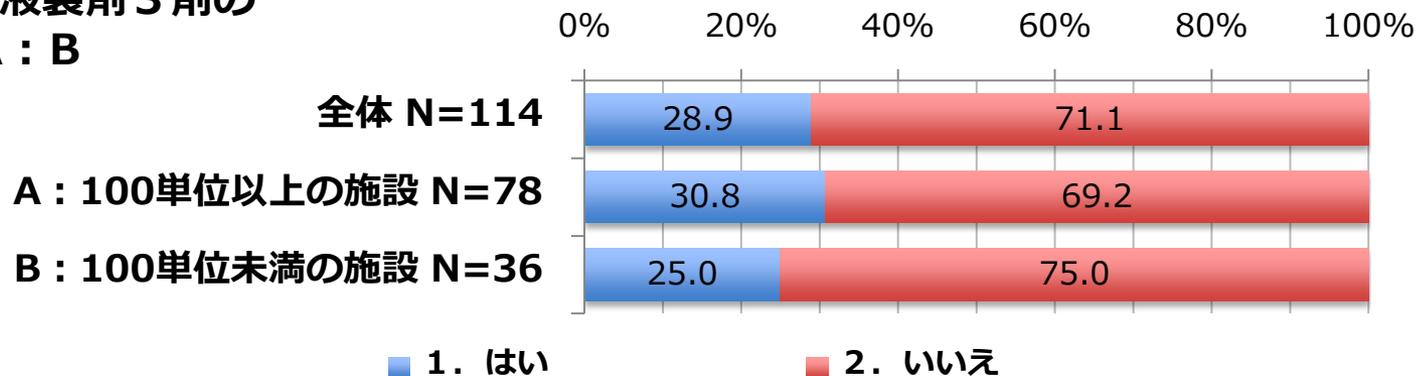


10. 在宅輸血について

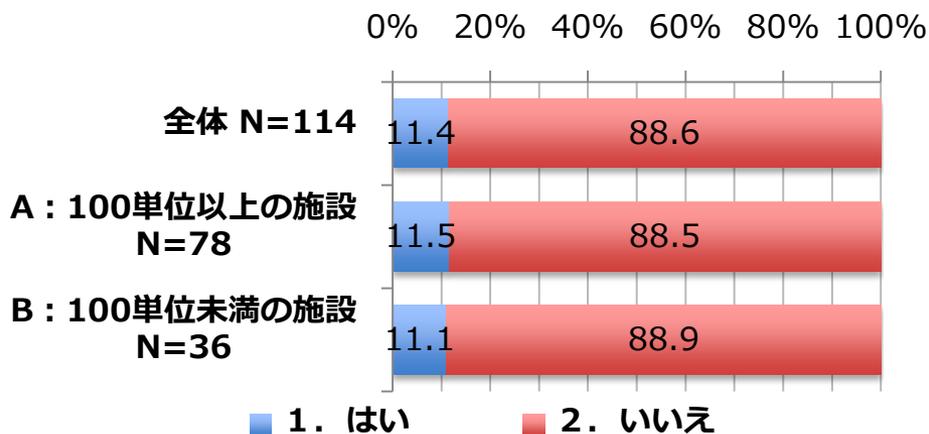
N=114

「在宅赤血球輸血ガイド」について内容の詳細を知っているか

令和4年度血液製剤3剤の
合計使用量 A : B



在宅輸血に対応できる施設か



在宅輸血を必要とする患者がいるか

